

1. 計画策定の背景・目的

国東市の公共交通網は近年、バス路線の廃止や、利用者の減少により費用対効果が低下しています。将来において公共交通網を維持していくために、より効率的に再編を行うことが喫緊の課題となっていることから、「国東市地域公共交通計画」を策定することとしました。

本計画では、人口減少や少子高齢化の更なる進行、公共交通に対する財政負担の増加など、現在や将来予想される問題点について、調査・分析を行い、市の課題を整理したうえで、市の将来の形を見据えた、実態に沿った持続可能な公共交通のありかたを示し、必要な対策・施策を記載します。

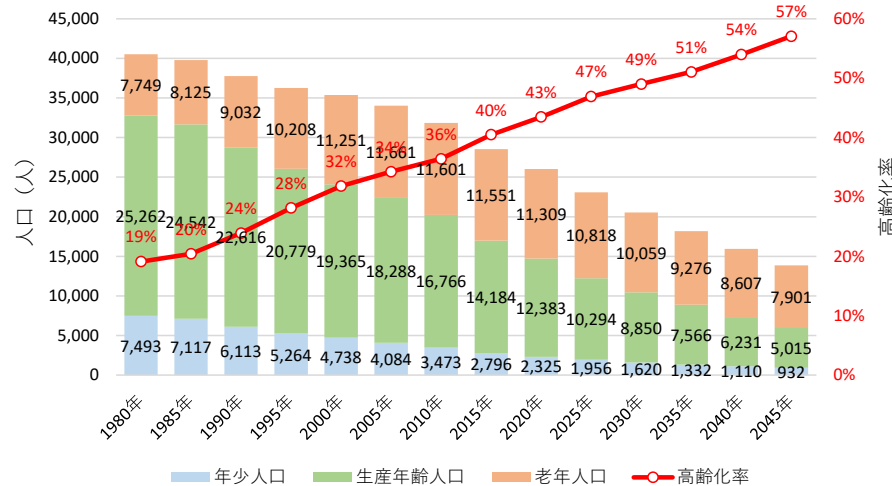


図1 少子高齢化の進む国東市内人口

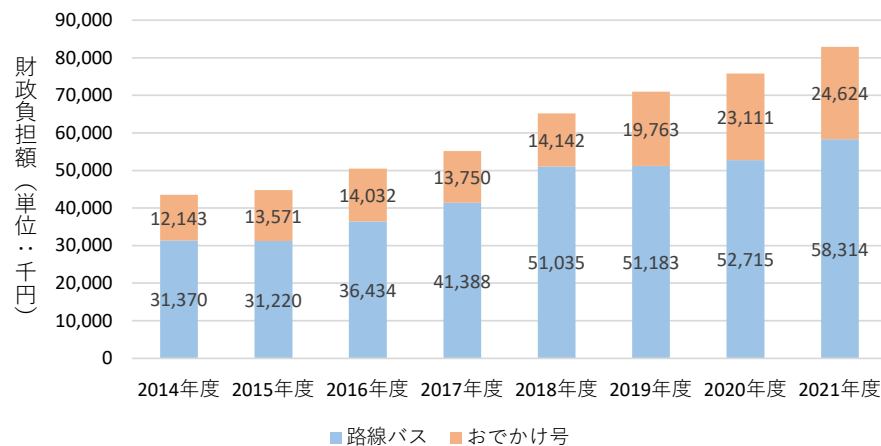


図2 年々増加する公共交通の年間財政負担額

2. 計画の期間

2023年10月から2028年9月までの5年間

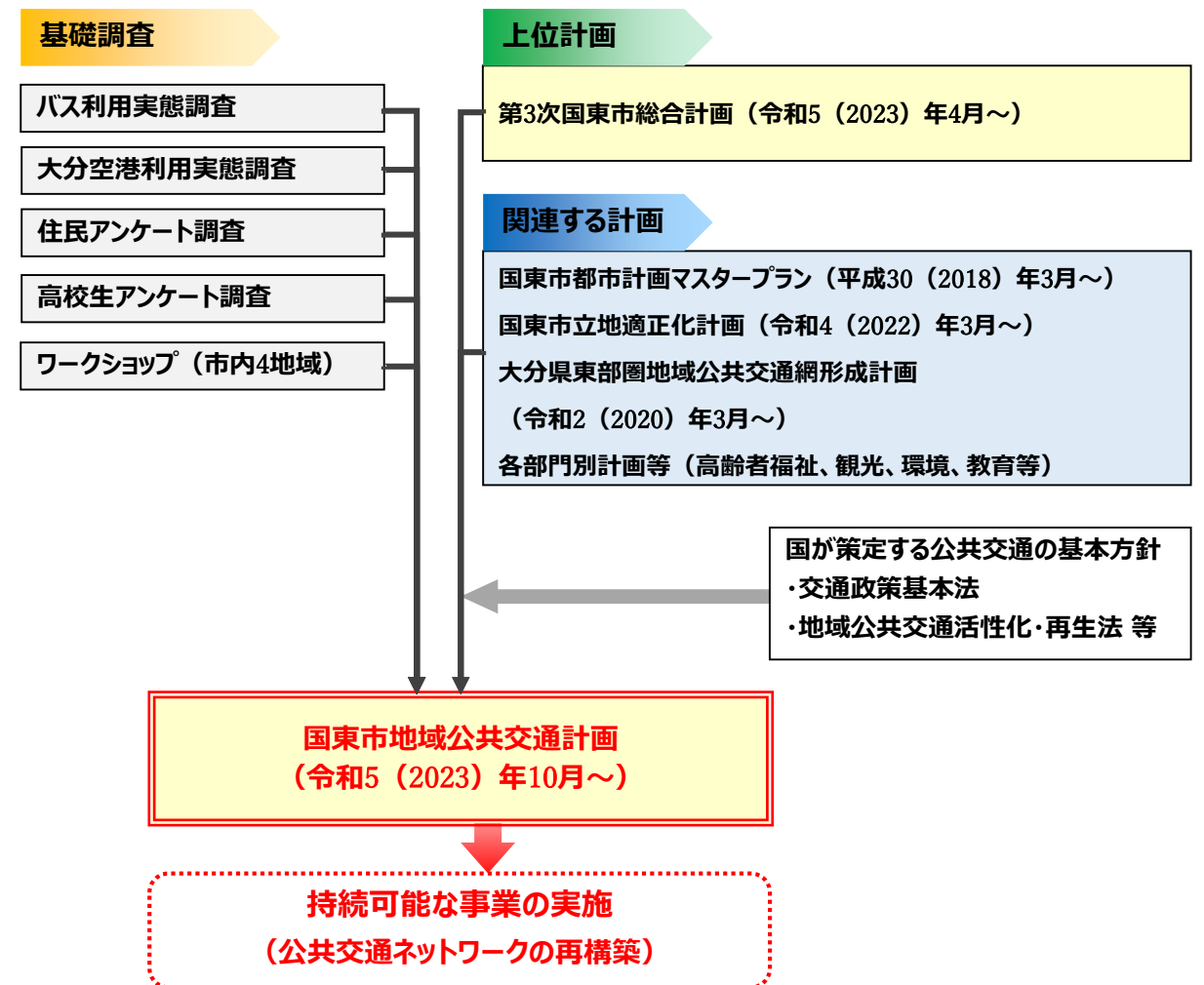
3. 計画の対象区域

国東市全域

4. 本計画の位置づけ

本計画は、「第3次国東市総合計画」を上位計画とした計画であるとともに、「国東市都市計画マスタープラン」、「国東市立地適正化計画」など関連計画との整合を図り、国が策定する公共交通の基本方針などに即しながら策定します。

なお、策定に際しては、市内の公共交通手段であるバスの利用実態調査を実施・分析するとともに、住民アンケート調査やワークショップを始めとした諸調査により、移動実態や公共交通の利用実態、公共交通に対するニーズを把握し、これら基礎調査の結果を踏まえて計画を策定しています。



5. 課題や取り巻く環境の変化の整理・分析

各種実施し、地域や地域公共交通の抱える課題と取り巻く環境について、整理・分析を行っています。

- 住民アンケート調査
- 高校生アンケート調査
- おでかけ号の利用実態調査
- 中学校3年生の進学先意向調査
- 大分空港来訪者調査
- 国東市内4地域を対象としたワークショップ
- 交通事業者ヒアリング

6. 基本的な方針と国東市公共交通の将来像

国東市の公共交通の現状・課題

公共交通網

- 沿岸部の幹線と、半島を放射方向に山間部と沿岸部を連絡する支線による公共交通網
- 山間部の支線では人口減少・高齢化に伴う利用減少が顕著であり、コミバス化が進行
- 一部地域では路線型デマンド交通を運行開始

移動サービス

- 市内各地で買い物支援などの住民主体の移動サービスの提供が拡大
- 小中学校や幼稚園を対象にスクールバスが運行され、路線によってはバスと路線が重複
- 病院・福祉送迎など多様な移動資源が存在

問題点・課題

- 公共交通利用者数の減少
- 公共交通に対する財政負担額の増加・運行効率性の低下
- バス路線から離れた集落の存在（交通不便地域）
- 利用の定着した路線と利用低迷する路線との差が拡大

地域の現状・課題

人口動向

- 人口減少・高齢化のさらなる進行
- 山間部では高齢者人口も減少、集落が縮小化
- 少子化に伴う生徒・児童の減少
- 交通不便地域の残存

移動ニーズ

- 移動手段の自家用車への高い依存度
- 人口減少・高齢化により縮小化・個別化する移動ニーズ
- 地域の持続のための、移動を軸とした生活の支援の必要性が山間部を中心に拡大

公共交通を取り巻く環境の変化

まちづくり

- 都市機能の集約と、公共交通との連携による持続的なまちづくり
- 中心市街地等における交通拠点の整備検討
- 大分空港と県都を連絡する新たな交通の就航

社会的なニーズ

- 持続可能な未来の形成（SDGs）
- 輸送資源の総動員による持続可能な公共交通網の構築
- 慢性的な運転手不足への対応
- 公共交通分野全般的な収益性の悪化
- 移動の縮小化・個別化
- 定住促進

基本的な方針

だれもが明るく楽しく暮らせる、自然・歴史・人の魅力あふれる地域の実現

国東市の公共交通に求められる役割

①移動を軸にした持続的な地域の形成

生活の基本である移動を支えることで、安心して定住できる環境をつくり、持続的な地域の形成を推進します。
様々な移動ニーズに対応した移動サービスの提供を通じて、普段の生活の安全・安心の向上を図ります。

②移動弱者の生活を支える移動手段の提供

自家用車などの自由に移動できる移動手段を持たない・運転に不安がある人でも、安心かつ安全に生活できるように、ニーズに合った公共的な移動サービスの提供を図ります。

③持続的な公共交通サービスへの転換

広域な市域において、効率的・効果的に公共交通サービスを運営し続けるため、公共交通サービスを真に必要な場所や人を見極め、適材適所のサービス導入を図ります。

④事業の継続的な支援とあらゆる輸送資源の活用・連携

路線バス、コミュニティバス・タクシー、タクシー等、既存の交通事業者について、人材確保を図るなど、地域における事業の継続性を支援しながら、スクールバス、買い物支援等の他の移動サービスとも連携し、移動サービス全体が持続的に運営できる環境の創造を推進します。

国東市の公共交通の目指す目標

①安心して定住できる地域の実現

まちづくりや福祉、教育等の分野間連携による総合的な施策により、安全・安心に生活できる持続的な地域の実現を図ります。

	数値目標		
	現状値 (R4年度)	中間値 (R7年度末)	目標値 (R9年度末)
路線バス利用助成券 利用額	1,800,900円	2,056,700円	2,244,200円
観光入込客数	77万人	94万人	98万人

②安全で柔軟な移動サービスの提供

利便性向上策や利用促進策を講じ、多様化するニーズに対応した安全で柔軟な公共交通による移動環境の構築を図ります。

	0区域	のべ10区域	のべ20区域
交通ニーズ調査・公共交通利用説明会開催数			
高齢運転者の交通事故発生数	15件	12件	10件

③地域公共交通サービスの最適化

公共交通全体だけでなく、役割や路線に応じた目標を明確にし、個々の公共交通サービスの最適化を図ります。

公共交通利用者数	324,000人	325,000人	325,000人
----------	----------	----------	----------

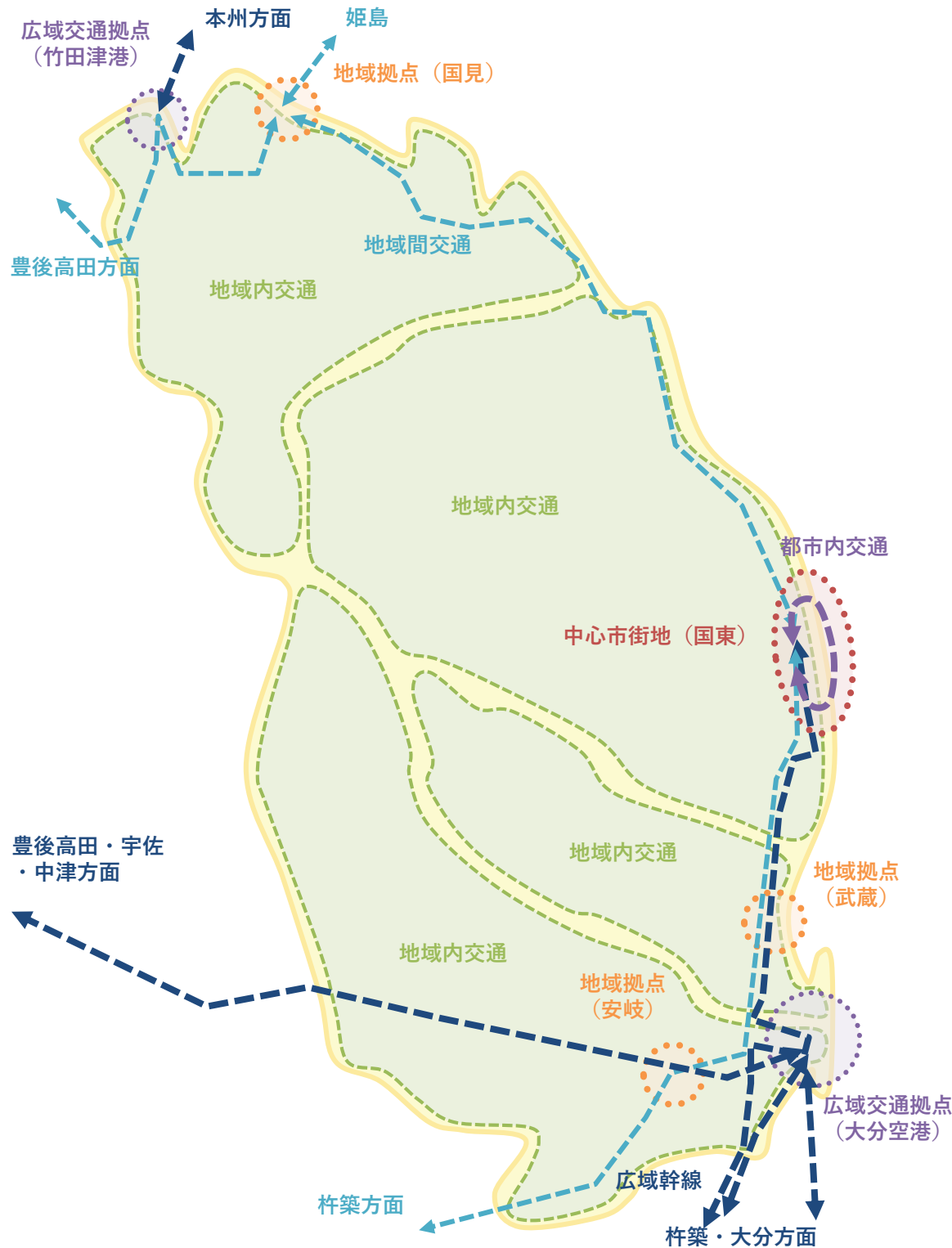
④移動サービスの持続性向上

移動サービス相互の連携や役割分担を推進するとともに、財政負担の適正化を図り、利便性と持続性の両立を推進します。

市民1人あたりの公共交通財政負担額	3,732円	2,500円	2,500円
1便あたりの公共交通の平均乗車人数	路線バス： 14.1人 コミュニティバス： 8.3人 コミュニティタクシー： 3.4人	路線バス： 15人 コミュニティバス： 8.8人 コミュニティタクシー： 3.4人	路線バス： 15人 コミュニティバス： 8.8人 コミュニティタクシー： 3.4人
公共交通の収支率	25.2%	25.2%	25.2%

7. 国東市で目指す地域公共交通の将来像

本計画に基づき、国東市において目指す公共交通網の将来像を以下の通り設定します。
 地域内交通については、路線バス・コミュニティバスや乗合タクシー、地域コミュニティ組織と連携した外出支援等の組合せによる移動手段の確保を図ります。



8. 地域別方針

地域	地域の現況・課題	方針
共通	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少と高齢化が進行し、移動弱者が増加する一方、移動ニーズは縮小化 ● 沿岸部の路線バスは通学利用が存在するが、山間部へのコミュニティバス利用は減少傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山間部のバス・コミュニティバス路線は、沿線地域状況や利用状況を踏まえ、予約型乗合タクシーへの転換や路線・ダイヤの見直しを検討 ● タクシーや外出支援事業等と連携し、移動弱者や観光客の足を確保 ● 定期券利用者の公共交通利用促進のためのサービス向上を検討
国見	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域内の移動が多いものの、居住地によって豊後高田市や国東地域方面への移動が存在 ● 特に利用が低迷するコミュニティバス・タクシー路線が存在 ● 外出支援事業を活用した移動サービスも存在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国東方面だけでなく、豊後高田市方面への移動利便性を向上
国東	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地中心部に商業・医療・行政等の生活利便施設が集中し、交通結節点整備の検討や観光交流施設の整備が進行 ● 山間部だけでなく市街地部でも高齢化・人口減少が進行し、移動弱者が広域に存在 ● 外出支援事業を活用した移動サービスも存在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地の周遊利便性向上を図る移動サービスの導入を検討
武蔵	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域内の移動が多いものの、居住地によって国東地域や杵築・別府市方面への移動が存在 ● 外出支援事業を活用した移動サービスの導入を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティ組織と連携し、外出支援事業を活用した移動サービスの導入促進 ● 複数の路線を組み合わせ、利便性と効率性の両立を推進
安岐	<ul style="list-style-type: none"> ● 大分空港周辺では住宅団地の開発が継続 ● 地域内の移動が多いものの、居住地によって杵築・別府市方面への移動が存在 ● 特に利用が低迷するコミュニティバス・タクシー路線が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティ組織と連携し、外出支援事業を活用した移動サービスの導入促進 ● 複数の路線を組み合わせ、利便性と効率性の両立を推進

9. 実施事業

国東市における公共交通網の目標および将来像の達成に向け、基本方針に基づいて、設定した個別事業を以下に示します。

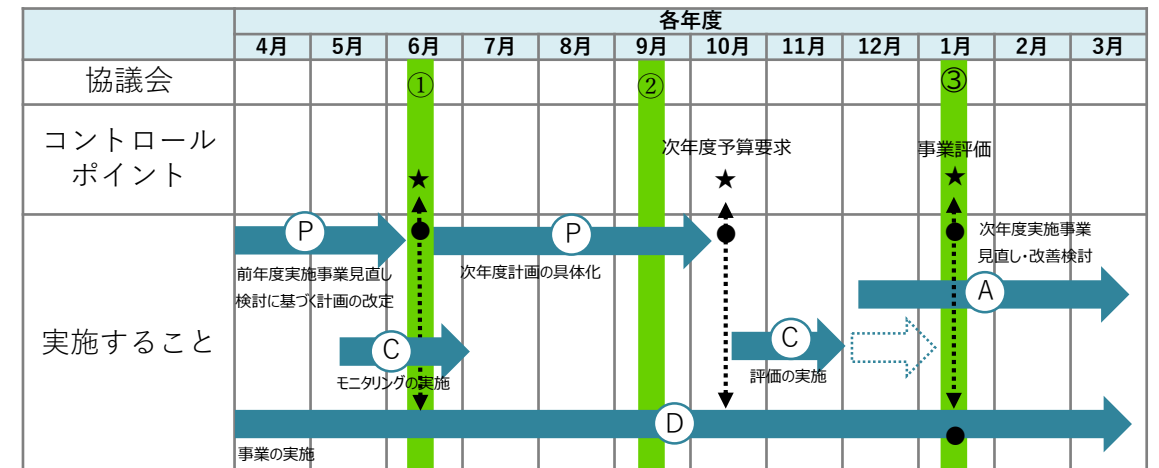
各事業は、記載する実施主体が事業を推進するものとしませんが、本計画期間内においても事業の有効性等を鑑みて、随時、実施事業及び事業内容は見直しを行います。

計画目標		実施時期					
実施事業	実施主体	R5	R6	R7	R8	R9	R10
安心して定住できる地域の実現							
地域公共交通の最適な組み合わせの推進	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	実証・検証	再編（利用状況により見直し）			
市域全体を対象とした新たな運賃体系の設定	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	運用開始（段階的に実施）				
まちづくりや観光の拠点と連携した移動環境構築	国東市政策企画課・観光課・まちづくり推進課、交通事業者	検討→実施					
国東市コミュニティバスのオープンデータ化	国東市政策企画課 交通事業者	検討・準備	運用開始 継続的に実施				
介護予防・生活支援サービス事業（ちょいかせ事業）の推進	国東市高齢者支援課	継続的に実施					
安全で柔軟な移動サービスの提供							
地域コミュニティ組織や医療・福祉部門等と連携した利用促進策の実施	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	運用開始（段階的に実施）				
地域公共交通サービスの最適化							
利用ニーズを踏まえたコミュニティ交通の運行内容の再編	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	再編（利用状況により見直し）				
AI・ICTを活用したデマンド運行システムの導入	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	運用開始				
交通結節機能の強化	国東市政策企画課・まちづくり推進課、交通事業者	検討→段階的に実施					
移動サービスの持続性向上							
地域間交通の維持・改善	国東市政策企画課、交通事業者	路線・ダイヤなどの定期的な見直し					
利用ニーズを踏まえたコミュニティ交通の運行内容の再編	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	再編（利用状況により見直し）				
持続可能な公共交通のための人材確保支援	国東市政策企画課、交通事業者	検討・準備	運用開始				

10. PDCAサイクルによる計画の継続的な改善

目標を達成するために、継続的に取組を実施していく（Do）と同時に、その取組結果を詳細に把握・評価し（Check）、課題が見つければさらに見直しを検討・調整し（Action）、新たな取組の計画を立案する（Plan）という「PDCA」のサイクルに基づいて、達成状況の評価を進めていきます。なお、毎年評価することが難しい実施事業については、中間値を測定することで評価を行い、適宜改善に取り組みます。

表1 PDCAの実施サイクル



11. 計画の推進体制

本計画は、改正地域公共交通活性化再生法及び交通政策基本法の趣旨に鑑み、計画の策定主体である本市を中心に、国東市地域公共交通確保維持協議会の構成員である交通事業者、地域住民、行政が一体となり、それぞれが主体性を発揮しながら、推進を図ります。

表2 計画の推進体制一覧表

事業主体	役割
国東市	関係者との密接な連絡調整 新規事業の企画・立案
交通事業者	旅客運送サービスの質の向上 利用状況等のデータの収集・分析 積極的な利用促進事業の実施
地域住民等	公共交通機関の積極的な利用 情報発信などの積極的な啓発活動の実施 地域等における要望等の取りまとめ
県	広域的な見地からの助言
国	先進事例等の情報提供 行政及び交通事業者の人材育成

国東市地域公共交通確保維持協議会（事務局：国東市役所 政策企画課内）

〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川149番地 TEL：0978-72-5161 / FAX：0978-72-5022